

令和7年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

令和6年11月11日

上場会社名 株式会社 ミクニ 上場取引所 東
 コード番号 7247 URL <https://www.mikuni.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 生田 久貴
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレート本部 経理室長 (氏名) 柴田 恒 TEL 03-3833-0532
 半期報告書提出予定日 令和6年11月11日 配当支払開始予定日 令和6年12月5日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切り捨て)

1. 令和7年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（令和6年4月1日～令和6年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 中間純利益 | |
|----------|--------|-----|-------|------|-------|-------|---------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 7年3月期中間期 | 50,283 | 4.9 | 1,140 | △4.0 | 1,288 | 32.4 | 43 | △59.3 |
| 6年3月期中間期 | 47,942 | 7.0 | 1,187 | 64.0 | 973 | 126.8 | 105 | — |

(注) 包括利益 7年3月期中間期 △578百万円 (—%) 6年3月期中間期 3,886百万円 (22.1%)

| | 1株当たり 中間純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益 |
|----------|----------------|---------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 7年3月期中間期 | 1.28 | — |
| 6年3月期中間期 | 3.15 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|----------|---------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 7年3月期中間期 | 118,283 | 39,512 | 32.6 | 1,146.10 |
| 6年3月期 | 111,536 | 40,598 | 35.6 | 1,180.23 |

(参考) 自己資本 7年3月期中間期 38,580百万円 6年3月期 39,715百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|-----------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 6年3月期 | — | 5.00 | — | 15.00 | 20.00 |
| 7年3月期 | — | 6.00 | — | — | — |
| 7年3月期（予想） | — | — | — | 8.00 | 14.00 |

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 令和6年3月期 期末配当金 金15円00銭は、創立100周年記念配当金 金10円00銭を含んでおります。

3. 令和7年3月期の連結業績予想（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|---------|-----|-------|------|-------|------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 104,000 | 4.1 | 4,300 | 17.1 | 3,500 | 10.7 | 1,600 | 43.4 | 47.58 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

| | | | | |
|----------------------|----------|-------------|----------|-------------|
| ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) | 7年3月期中間期 | 34,049,423株 | 6年3月期 | 34,049,423株 |
| ② 期末自己株式数 | 7年3月期中間期 | 386,878株 | 6年3月期 | 399,092株 |
| ③ 期中平均株式数 (中間期) | 7年3月期中間期 | 33,656,055株 | 6年3月期中間期 | 33,605,521株 |

(注) 「役員報酬BIP信託」及び「株式交付ESOP信託」が保有する当社株式を、期末自己株式数に含めております (7年3月期中間期 350,080株 6年3月期 362,580株)。また、「役員報酬BIP信託」及び「株式交付ESOP信託」が保有する当社株式を、期中平均株式数 (中間期) の計算において控除する自己株式に含めておりません (7年3月期中間期 356,637株 6年3月期中間期 407,652株)。

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 当社は、令和6年11月22日に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定であります。この説明会で配布する決算補足説明資料については、当社ウェブサイトに掲載する予定であります。
2. 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により、これらの業績予想とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 当中間決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 4 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. 中間連結財務諸表及び主な注記 | 5 |
| (1) 中間連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 | 7 |
| 中間連結損益計算書 | 7 |
| 中間連結包括利益計算書 | 8 |
| (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 | 9 |
| (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 | 10 |
| (会計方針の変更に関する注記) | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 10 |
| (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 10 |
| (セグメント情報等の注記) | 11 |

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(令和6年4月1日～令和6年9月30日)におけるわが国経済は緩やかに回復しましたが、為替市場は不安定さを増し円安が進行しました。海外では、中国の不動産不況や米国における金利の高止まり等により先行き不透明な状況が続きました。

このような経営環境のなか当グループにおいては、インドにおけるモビリティ事業及び商社事業の堅調な推移により、売上高は502億8千3百万円(前年同期比4.9%増)となりました。一方、営業利益は11億4千万円(前年同期比4.0%減)、経常利益は12億8千8百万円(前年同期比32.4%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は4千3百万円(前年同期比59.3%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

[モビリティ事業]

四輪車・二輪車・汎用エンジン用燃料供給装置類及びエンジン関連機能品類の製造販売を中心とする当事業では、昨年引き続きインド市場での好調が維持されたものの、国内における船外機用製品や大型二輪車用製品の売上減少、更にはアセアン四輪市場の低迷により、売上高は412億1千6百万円(前年同期比2.9%増)、営業利益は8億8千7百万円(前年同期比12.5%減)となりました。

[ガステクノ事業]

ガス機器用制御機器類及び水制御機器類等の製造販売を中心とする当事業では、中国の不動産不況下、販売量は低迷しているものの、円安の影響並びに販売価格の適正化により、売上高は29億4千1百万円(前年同期比5.1%増)となりました。営業損益は売上高の増加に加え、社内改善を進めた結果、営業損失が3億2千5百万円(前年同期は3億4千3百万円の営業損失)と縮小しました。

[商社事業]

航空機部品類、芝管理機械等の輸入販売事業を中心とする当事業では、民間航空機の生産が引き続き堅調に推移し、芝管理機械は取扱いブランドの変更が順調に進んだことから、売上高は49億2千6百万円(前年同期比25.8%増)、営業利益は5億3千4百万円(前年同期比5.5%増)となりました。

[その他事業]

当セグメントについては、主力の福祉介護機器等の製造販売事業が引き続き堅調に推移したことから売上高は11億9千9百万円(前年同期比3.6%増)となり、営業利益は4千3百万円(前年同期比318.1%増)となりました。

【セグメント業績比較表】

(単位：百万円)

| | 令和6年3月期 中間連結会計期間 | | 令和7年3月期 中間連結会計期間 | | 売上高の増減 | | 営業利益の増減 | |
|-------------|---------------------|-------|---------------------|-------|--------|-------|---------|--------|
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 | 金額 | 率 | 金額 | 率 |
| モビリティ事業 | 40,069 | 1,014 | 41,216 | 887 | 1,146 | 2.9% | △126 | △12.5% |
| ガステクノ事業 | 2,799 | △343 | 2,941 | △325 | 141 | 5.1% | 18 | — |
| 商社事業 | 3,915 | 506 | 4,926 | 534 | 1,011 | 25.8% | 27 | 5.5% |
| その他事業 | 1,157 | 10 | 1,199 | 43 | 42 | 3.6% | 33 | 318.1% |
| 合計 | 47,942 | 1,187 | 50,283 | 1,140 | 2,340 | 4.9% | △47 | △4.0% |
| ご参考 外貨換算レート | 1米ドル=135.00円 | | 1米ドル=152.36円 | | — | | — | |

- (注) 1. 営業利益欄の△は営業損失を示しております。
2. 数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
3. 当連結会計年度あるいは前連結会計年度の一方若しくは両方がマイナスの場合の増減率は「—」としております。

【ご参考】 令和6年3月期～当第2四半期までの四半期毎の業績推移

(単位：百万円)

| | | 令和6年3月期連結会計年度 | | | | 当期 | |
|---------|------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 第1 | 第2 | 第3 | 第4 | 第1 | 第2 |
| モビリティ事業 | 売上高 | 19,550 | 20,519 | 21,402 | 21,972 | 19,604 | 21,611 |
| | 営業利益 | 622 | 392 | 587 | 1,625 | 460 | 427 |
| ガステクノ事業 | 売上高 | 1,298 | 1,501 | 1,608 | 1,552 | 1,378 | 1,562 |
| | 営業利益 | △167 | △176 | △69 | △133 | △154 | △171 |
| 商社事業 | 売上高 | 1,875 | 2,039 | 2,169 | 2,004 | 2,674 | 2,252 |
| | 営業利益 | 114 | 391 | 367 | 65 | 491 | 43 |
| その他事業 | 売上高 | 555 | 602 | 605 | 683 | 591 | 608 |
| | 営業利益 | △6 | 16 | 12 | 27 | 7 | 35 |
| 合計 | 売上高 | 23,279 | 24,663 | 25,786 | 26,212 | 24,249 | 26,034 |
| | 営業利益 | 562 | 624 | 898 | 1,585 | 805 | 335 |

- (注) 1. 営業利益欄の△は営業損失を示しております。
2. 数値は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末における総資産は、1,182億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べて67億4千6百万円増加しました。

流動資産は、661億5千4百万円となり、前連結会計年度末に比べて91億1千7百万円増加しました。これは主に、棚卸資産が52億1千3百万円増加したこと、並びに現金及び預金が16億9百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、521億2千9百万円となり、前連結会計年度末に比べて23億7千1百万円減少しました。これは主に、設備投資等により有形固定資産が7億7百万円増加したものの、投資有価証券が32億1千2百万円減少したことによるものであります。

当中間連結会計期間末における負債は、787億7千万円となり、前連結会計年度末に比べて78億3千2百万円増加しました。

流動負債は、529億8千9百万円となり、前連結会計年度末に比べて97億2千8百万円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金が5億6千万円減少したものの、短期借入金が110億3千9百万円増加したことによるものであります。

固定負債は、257億8千1百万円となり、前連結会計年度末に比べて18億9千6百万円減少しました。これは主に、長期借入金が10億8千万円減少したこと、並びに繰延税金負債が7億6千4百万円減少したことによるものであります。

当中間連結会計期間末における純資産は、395億1千2百万円となり、前連結会計年度末に比べて10億8千6百万円減少しました。これは主に、為替換算調整勘定が18億8百万円増加したものの、その他有価証券評価差額金が22億7千8百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和6年5月10日に公表しました令和7年3月期の連結業績予想につきましては変更はありません。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おきください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (令和6年3月31日) | 当中間連結会計期間 (令和6年9月30日) |
|----------------|------------------------|--------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,114 | 4,723 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 20,999 | 22,306 |
| 電子記録債権 | 2,325 | 2,196 |
| 商品及び製品 | 14,441 | 18,896 |
| 仕掛品 | 7,010 | 7,639 |
| 原材料及び貯蔵品 | 3,576 | 3,705 |
| その他 | 5,643 | 6,779 |
| 貸倒引当金 | △74 | △95 |
| 流動資産合計 | 57,036 | 66,154 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 10,061 | 10,194 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 11,678 | 11,076 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 2,557 | 2,834 |
| 土地 | 11,590 | 11,682 |
| 建設仮勘定 | 3,217 | 4,024 |
| 有形固定資産合計 | 39,105 | 39,812 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 453 | 425 |
| その他 | 288 | 281 |
| 無形固定資産合計 | 742 | 707 |
| 投資その他の資産 | 14,653 | 11,608 |
| 固定資産合計 | 54,500 | 52,129 |
| 資産合計 | 111,536 | 118,283 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (令和6年3月31日) | 当中間連結会計期間 (令和6年9月30日) |
|---------------|------------------------|--------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 9,898 | 9,338 |
| 電子記録債務 | 2,167 | 2,362 |
| 契約負債 | 964 | 1,038 |
| 短期借入金 | 16,733 | 27,772 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 5,056 | 4,642 |
| 未払法人税等 | 212 | 226 |
| 賞与引当金 | 1,710 | 1,429 |
| 製品保証引当金 | 227 | 232 |
| その他 | 6,290 | 5,946 |
| 流動負債合計 | 43,260 | 52,989 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 17,055 | 15,975 |
| 役員報酬BIP信託引当金 | 81 | 80 |
| 株式交付引当金 | 19 | 15 |
| 退職給付に係る負債 | 2,326 | 1,352 |
| その他 | 8,194 | 8,357 |
| 固定負債合計 | 27,677 | 25,781 |
| 負債合計 | 70,937 | 78,770 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,215 | 2,215 |
| 資本剰余金 | 1,954 | 1,954 |
| 利益剰余金 | 15,619 | 15,151 |
| 自己株式 | △154 | △151 |
| 株主資本合計 | 19,633 | 19,169 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 7,528 | 5,250 |
| 繰延ヘッジ損益 | 318 | 148 |
| 土地再評価差額金 | 5,282 | 5,282 |
| 為替換算調整勘定 | 5,933 | 7,741 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 1,018 | 987 |
| その他の包括利益累計額合計 | 20,081 | 19,410 |
| 非支配株主持分 | 883 | 931 |
| 純資産合計 | 40,598 | 39,512 |
| 負債純資産合計 | 111,536 | 118,283 |

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

| | 前中間連結会計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年9月30日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 47,942 | 50,283 |
| 売上原価 | 40,797 | 42,993 |
| 売上総利益 | 7,145 | 7,290 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,957 | 6,149 |
| 営業利益 | 1,187 | 1,140 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 22 | 18 |
| 受取配当金 | 112 | 126 |
| 持分法による投資利益 | 6 | 16 |
| 為替差益 | — | 335 |
| 受取賃貸料 | 59 | 67 |
| その他 | 97 | 111 |
| 営業外収益合計 | 298 | 676 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 399 | 436 |
| 為替差損 | 36 | — |
| その他 | 76 | 91 |
| 営業外費用合計 | 513 | 528 |
| 経常利益 | 973 | 1,288 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 111 | 40 |
| その他 | 0 | — |
| 特別利益合計 | 112 | 40 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 26 | 63 |
| 生産拠点再編費用 | 66 | — |
| 退職給付制度移行損 | — | 56 |
| その他 | 1 | 5 |
| 特別損失合計 | 95 | 126 |
| 税金等調整前中間純利益 | 990 | 1,202 |
| 法人税等 | 821 | 1,154 |
| 中間純利益 | 168 | 47 |
| 非支配株主に帰属する中間純利益 | 62 | 4 |
| 親会社株主に帰属する中間純利益 | 105 | 43 |

(中間連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

| | 前中間連結会計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年9月30日) |
|------------------|--|--|
| 中間純利益 | 168 | 47 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,221 | △2,278 |
| 繰延ヘッジ損益 | 171 | △169 |
| 為替換算調整勘定 | 2,299 | 1,831 |
| 退職給付に係る調整額 | 10 | △30 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 15 | 20 |
| その他の包括利益合計 | 3,718 | △626 |
| 中間包括利益 | 3,886 | △578 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る中間包括利益 | 3,770 | △627 |
| 非支配株主に係る中間包括利益 | 116 | 48 |

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| | 前中間連結会計期間 (自 令和5年4月1日 至 令和5年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 令和6年4月1日 至 令和6年9月30日) |
|-----------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前中間純利益 | 990 | 1,202 |
| 減価償却費 | 2,575 | 2,827 |
| 持分法による投資損益(△は益) | △6 | △16 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | 43 | △1,065 |
| 製品保証引当金の増減額(△は減少) | △30 | 2 |
| 生産拠点再編引当金の増減額(△は減少) | △1,277 | — |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | 54 | △295 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 6 | 11 |
| 受取利息及び受取配当金 | △134 | △144 |
| 支払利息 | 399 | 436 |
| 固定資産除売却損益(△は益) | △85 | 23 |
| 売上債権及び契約資産の増減額(△は増加) | 664 | △158 |
| 未収入金の増減額(△は増加) | 21 | △33 |
| 棚卸資産の増減額(△は増加) | △1,892 | △4,456 |
| 前渡金の増減額(△は増加) | 13 | △265 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △4 | △1,107 |
| 未払金の増減額(△は減少) | △549 | 886 |
| その他 | 211 | △1,299 |
| 小計 | 1,001 | △3,451 |
| 利息及び配当金の受取額 | 111 | 154 |
| 利息の支払額 | △402 | △432 |
| 法人税等の支払額 | △1,005 | △1,166 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △295 | △4,894 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △3,152 | △2,536 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 878 | 375 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △117 | △21 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △25 | — |
| 貸付けによる支出 | △30 | △39 |
| 貸付金の回収による収入 | 37 | 41 |
| その他 | 4 | △29 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,404 | △2,210 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の増減額(△は減少) | 5,552 | 10,613 |
| 長期借入れによる収入 | 661 | 843 |
| 長期借入金の返済による支出 | △2,052 | △2,467 |
| 自己株式の取得による支出 | △0 | △0 |
| 配当金の支払額 | △169 | △507 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | △69 | △3 |
| その他 | △224 | △160 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 3,698 | 8,317 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 143 | 397 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 1,142 | 1,609 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 3,712 | 3,114 |
| 連結子会社の決算期変更による現金及び現金同等物の増加額 | 158 | — |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 5,014 | 4,723 |

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を採用しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 令和5年4月1日 至 令和5年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 | 中間 連結損益 計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|-------------|-------------|-------|--------|--------------|--------|-----|-----------------------------------|
| | モビリティ 事業 | ガステクノ 事業 | 商社事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 40,069 | 2,799 | 3,915 | 46,785 | 1,157 | 47,942 | — | 47,942 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 40,069 | 2,799 | 3,915 | 46,785 | 1,157 | 47,942 | — | 47,942 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 1,014 | △343 | 506 | 1,177 | 10 | 1,187 | — | 1,187 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、福祉介護機器の製造販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 令和6年4月1日 至 令和6年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 | 中間 連結損益 計算書 計上額 (注) 2 |
|-----------------------|-------------|-------------|-------|--------|--------------|--------|-----|-----------------------------------|
| | モビリティ 事業 | ガステクノ 事業 | 商社事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 41,216 | 2,941 | 4,926 | 49,083 | 1,199 | 50,283 | — | 50,283 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 41,216 | 2,941 | 4,926 | 49,083 | 1,199 | 50,283 | — | 50,283 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 887 | △325 | 534 | 1,096 | 43 | 1,140 | — | 1,140 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、福祉介護機器の製造販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。